

平成29年6月15日

平成29年度病虫害発生予報第3号

長崎県病虫害防除所長

【予報の概要】

農作物名	病虫害名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
早期水稲	いもち病（葉いもち） 紋枯病	並 並	並 並
水稲共通	ヒメトビウンカ（防除情報第7号） 縞葉枯病（防除情報第7号） ツマグロヨコバイ 萎縮病 セジロウンカ トビイロウンカ コブノメイガ	多 少 並 並 並 並 並	多 並 並 並 並 並 並
いちご （育苗床）	うどんこ病 炭疽病（ <i>Glomerella cingulata</i> ） ハダニ類（注意報第3号）	少 並 多	やや少 並 多
アスパラガス	アザミウマ類	やや少	やや少
かんきつ	かいよう病 黒点病 ミカンハダニ チャノキイロアザミウマ ヤノネカイガラムシ	並 並 やや多 やや多 並	並 並 やや多 やや多 並
びわ	がんしゅ病 灰斑病 ナシヒメシンクイ	やや少 やや少 やや多	並 並 やや多
なし	黒星病（注意報第2号継続） ナシヒメシンクイ	やや多 やや多	やや多 やや多
ぶどう	べと病 黒とう病 チャノキイロアザミウマ	並 並 やや多	並 並 やや多
果樹共通	カメムシ類	並	並
茶	炭疽病 チャノキイロアザミウマ チャノコカクモンハマキ チャノホソガ カンザワハダニ チャノミドリヒメヨコバイ クワシロカイガラムシ	並 並 並 並 並 やや多 並	やや多 並 並 並 並 やや多 並

【発生予報】

本文の（ ）内は平年値

## 早期水稲

### 1. いもち病（葉いもち）

#### （1）予報内容

発生程度 並

#### （2）予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査（41筆）の結果、発生を認めなかった（発病株率0.0%、発生圃場率0.2%）。

イ 6月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発生を認めなかった（発病株率0.0%）。

ウ 葉いもちの感染に好適な条件を満たした日は下表のとおりである（葉いもち感染好適条件判定モデルによる。好適条件等の詳細はホームページを参照）。

	長崎	佐世保	島原	平戸	松浦	厳原	芦辺	福江	大瀬戸	口之津
6月1日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月2日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月3日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月4日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月5日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月6日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月7日	●	—	—	—	—	—	4	—	—	—
6月8日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月9日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月10日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月11日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4
6月12日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月13日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月14日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

発生指標	?:判定 不能	—:好適 条件なし	1:準好 適条件1	2:準好 適条件2	3:準好 適条件3	4:準好 適条件4	●:好適 条件
------	------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	------------

### 2. 紋枯病

#### （1）予報内容

発生程度 並

#### （2）予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査（41筆）の結果、発生を認めなかった（発病株率0.0%、発生圃場率0.2%）。

イ 6月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

## 水稲共通

### 1. ヒメトビウンカと縞葉枯病

平成29年6月15日付**病害虫発生予察防除情報第7号**による。

### 2. ツマグロヨコバイと萎縮病

#### （1）予報内容

発生程度 ツマグロヨコバイ 並  
萎縮病 並

#### （2）予報の根拠

ア 5月下旬のイネ科雑草地（2地点）から採集したツマグロヨコバイ（第1世

代)についてイネ萎縮ウイルスの保毒虫率検定を行った結果、保毒虫率は0% (0%)であった。

イ 6月上旬の巡回調査(41筆)の結果、早期水稲におけるツマグロヨコバイの株当たり虫数は0.1頭(0.1頭)、発生圃場率は40.0%(26.2%)であった。萎縮病の発生は認めなかった(発生を認めない)。

ウ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、早期水稲におけるツマグロヨコバイの株当たり虫数は1.0頭(2.2頭)であった。萎縮病の発生は認めなかった(発生を認めない)。

### 3. セジロウンカ、トビイロウンカ

#### (1) 予報内容

発生程度	セジロウンカ	並
	トビイロウンカ	並

#### (2) 予報の根拠

ア セジロウンカは5月25日にネットトラップ(諫早市)で初確認した。トビイロウンカは飛来を確認していない。

イ 6月上旬の巡回調査(41筆)の結果、早期水稲におけるセジロウンカ、トビイロウンカともに発生を認めなかった(セジロウンカ:株当たり虫数0.1頭、発生圃場率32.6%。トビイロウンカ:発生を認めない)。

ウ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、早期水稲、無防除)調査の結果、セジロウンカ、トビイロウンカともに発生を認めなかった(セジロウンカ:株当たり虫数1.3頭。トビイロウンカ:発生を認めない)。

#### (3) 防除上注意すべき事項

今後の飛来状況に注意する。

### 4. コブノメイガ

#### (1) 予報内容

発生程度	並
------	---

#### (2) 予報の根拠

ア フェロモントラップ(諫早市)では誘殺を認めていない。

イ 6月上旬の巡回調査(41筆)の結果、早期水稲における発生は認めなかった(食害株率0.7%、10㎡当たり成虫数0.0頭)。

ウ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、早期水稲、無防除)調査の結果、食害株、成虫及び幼虫の発生は認めなかった(食害株率は発生を認めない。成虫の10㎡当たり虫数0.0頭)。

#### (3) 防除上注意すべき事項

今後の飛来状況に注意する。

## いちご

### 1. うどんこ病

#### (1) 予報内容

発生程度	やや少
------	-----

#### (2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率6.5%、発生圃場率37.7%)。

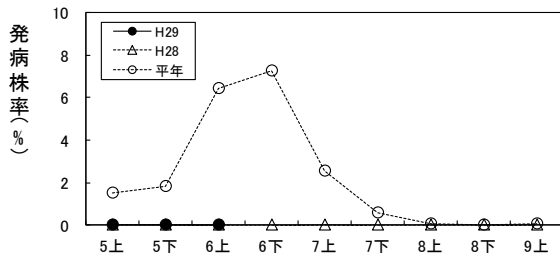


図 うどんこ病 発病株率の推移

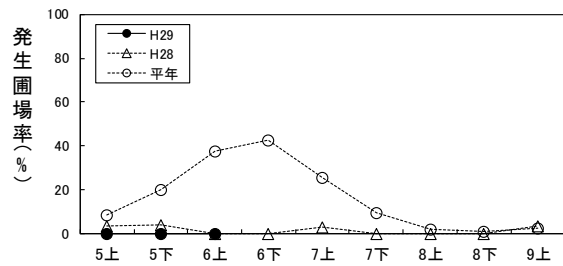


図 うどんこ病 発生圃場率の推移

## 2. 炭疽病 (*G. cingulata*)

### (1) 予報内容

発生程度 並

### (2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.0%、発生圃場率0.0%)。

### (3) 防除上注意すべき事項

- ア 育苗床が多湿にならないように、長時間のかん水はしない。ポット間隔を十分にとり、排水対策を確実に行う。また、除草を徹底するなど、環境整備に努める。
- イ 育苗床は全面マルチを行い、降雨等による地面からの病原菌の跳ね上がりを防止する。また、雨よけ施設がある育苗床では雨よけを行う。
- ウ 発病した子苗およびその周辺の株は速やかに処分する。また、発病した親株から採苗した子苗は育苗せずに処分する。除去した発病株や茎葉は、圃場内やその周辺に放置しない。
- エ 葉の展開間隔にあわせて定期的に薬剤防除する。特に長雨、台風などの前後、下葉除去など株を傷つけるような作業後は重点的に行う。

## 3. ハダニ類

平成29年6月15日付け**病害虫発生予察注意報第3号**による。

### アスパラガス

#### 1. アザミウマ類

##### (1) 予報内容

発生程度 やや少

##### (2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(12筆)の結果、払い落とし虫数(10.5cm×22.5cmの白色板に5回×10ヶ所)は8.8頭(25.7頭)、発生圃場率は58.3%(74.3%)であった。

### かんきつ

#### 1. かいよう病

##### (1) 予報内容

発生程度 並

##### (2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(36筆)の結果、発病葉率は0.0%(0.1%)、発生圃場率は5.6%(5.6%)であった。

## 2. 黒点病

### (1) 予報内容

発生程度 並

### (2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査（36筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

## 3. ミカンハダニ

### (1) 予報内容

発生程度 やや多

### (2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査（36筆）の結果、寄生葉率は9.8%（6.1%）、発生圃場率は41.7%（44.4%）で、一部多発地域があった。

## 4. チャノキイロアザミウマ

### (1) 予報内容

発生程度 やや多

### (2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査（36筆）の結果、被害果率は0.2%（0.0%）、発生圃場率は5.6%（0.5%）であった。

イ 黄色粘着トラップ（諫早市小船越町）による誘殺量は、平年より多く推移している（図）。

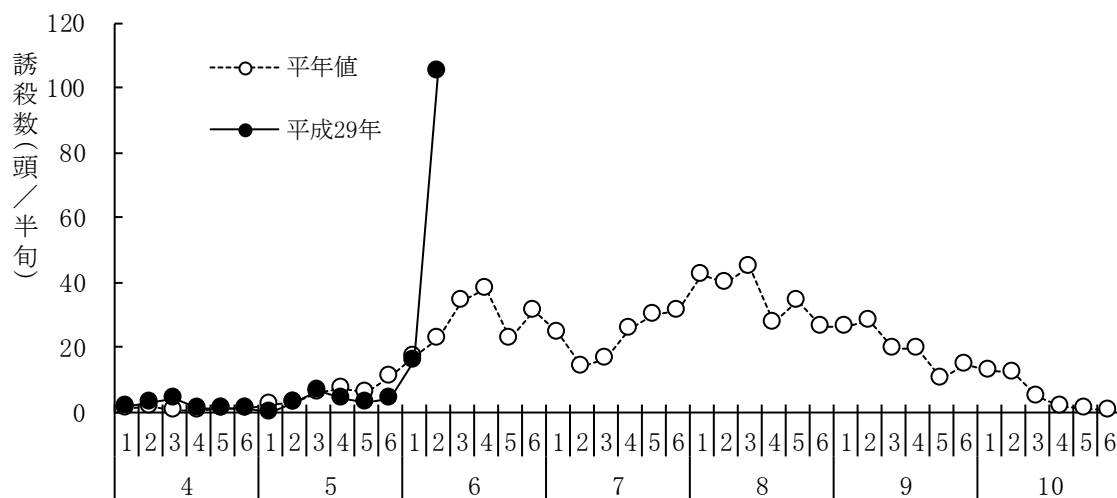


図 チャノキイロアザミウマの誘殺状況 (月・半旬)  
(諫早市小船越町:黄色粘着トラップ)

### (3) 防除上注意すべき事項

ア 気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した発生ピーク予測日は下表のとおりである。

表 有効積算温度計算シミュレーションによるチャノキロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日

地点	長崎	佐世保	大瀬戸	口之津	平戸
第3世代	<b>6/28</b>	<b>6/29</b>	<b>7/7</b>	<b>6/30</b>	<b>7/9</b>
〃 (前年)	7/1	7/7	7/9	7/2	7/14
〃 (平年)	6/22	6/23	7/1	6/23	7/4
第4世代	<b>7/17</b>	<b>7/19</b>	<b>7/26</b>	<b>7/19</b>	<b>7/28</b>
〃 (前年)	7/20	7/26	7/28	7/20	8/2
〃 (平年)	7/12	7/12	7/21	7/13	7/24
標高(m)	27	4	43	10	58

注1: 発生ピーク予測日は気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した。なお、積算には2017年6月13日までは観測値を、以降は平年値を使用した。

注2: 同一地区内でも、山間部では予測発生ピーク日が異なる場合があるので注意する。また、今後の気象条件により予測日は前後する場合がある。

注3: 表中の発生ピーク予測日の5日前から発生ピーク予測日の期間に薬剤散布をすると防除効果が高い。なお発生が多い園では、1果当たり寄生虫数が0.1頭に達する前に防除を行う。

イ 茶、かき、ぶどう及びイヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

## 5. ヤノネカイガラムシ

### (1) 予報内容

発生程度 並

### (2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(36筆)の結果、発生を認めなかった(寄生果率0.0%、発生圃場率0.8%)。

### (3) 防除上注意すべき事項

気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した初発生の予測に基づいた各地区の防除適期(有機リン剤の場合、初発日の40日後)は、下表のとおりである。

表 ヤノネカイガラムシ初発生の予測による防除時期

地点	長崎	大村	島原	口之津	大瀬戸	佐世保	松浦	平戸	福江	石田	巖原	長崎 (平年値)
有機リン剤防除日	6/15	6/16	6/16	6/15	6/16	6/15	6/17	6/17	6/15	6/17	6/18	6/17
標高(m)	27	3	9	10	43	4	5	58	25	26	4	27

注1: 方法は「果樹防除適期判定システム(ヤノネカイガラムシ)」を使用した。

注2: 初発生予測日は気象庁アメダスの気温データ(1月1日~4月30日)を用いて算出し、防除適期は有機リン剤で40日後とした。

注3: 同一地区内でも、山間部では防除適期が遅れることがあるので注意する。

## び わ

### 1. がんしゅ病

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発生を認めなかった(発病枝葉率0.7%、発生圃場率35.0%)。

### 2. 灰斑病

#### (1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発生枝葉率は2.4%(7.4%)、発生圃場率は60.0%(76.3%)であった。

3. ナシヒメシクイ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発生を認めなかった(寄生枝葉率0.1%、発生圃場率2.5%)。

イ 諫早市小船越町、長崎市茂木のフェロモントラップの誘殺量は平年よりやや多く推移している(図)。

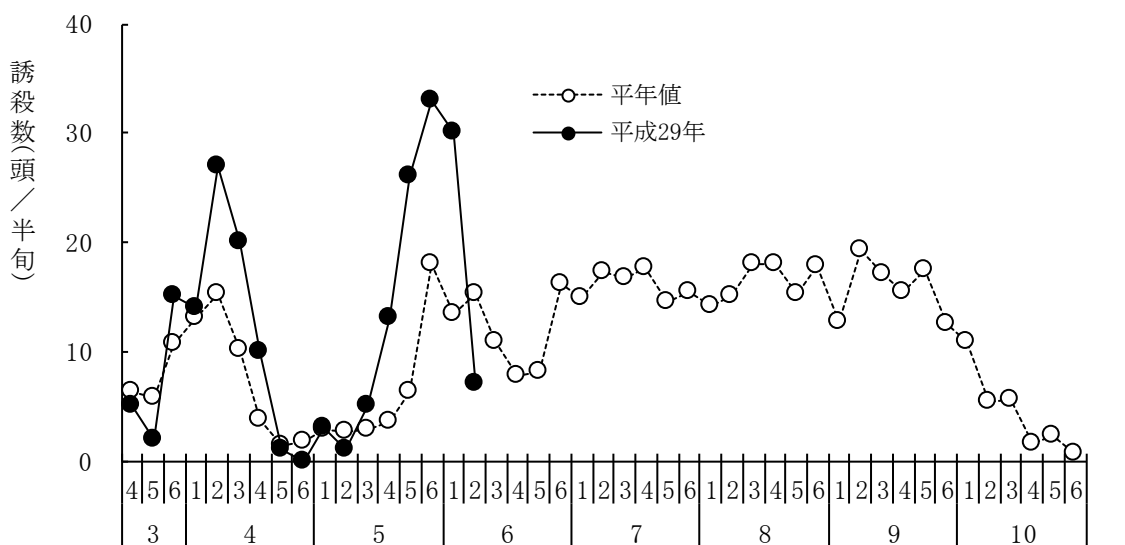


図 ナシヒメシクイの誘殺状況 (諫早市小船越町:フェロモントラップ) (月・半旬)

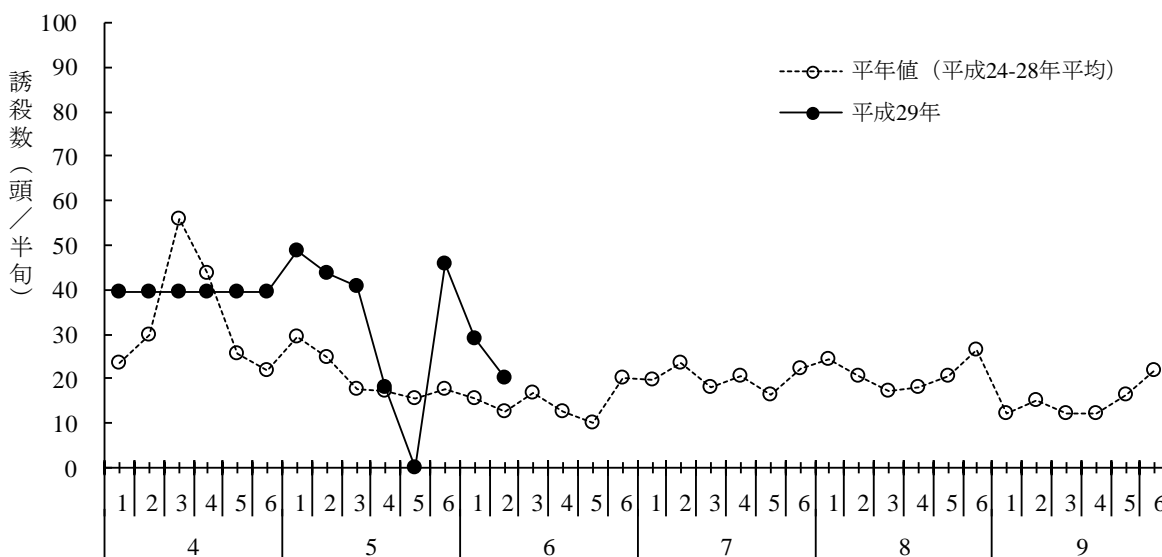


図 ナシヒメシクイの誘殺状況 (長崎市茂木・フェロモントラップ) (月・半旬)

(3) 防除上注意すべき事項

フェロモントラップにより発生消長を把握し、成虫の発生最盛期を目安に薬剤防除を実施する。

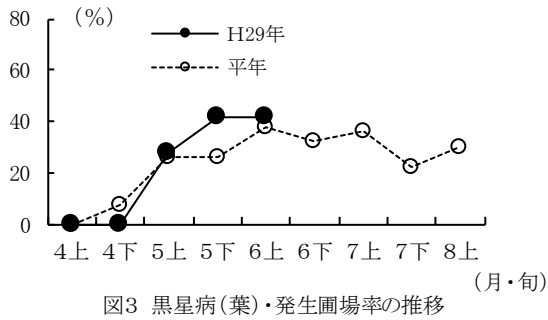
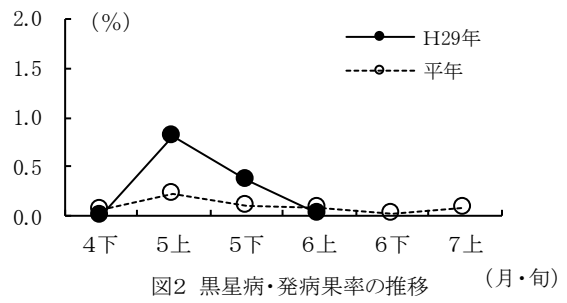
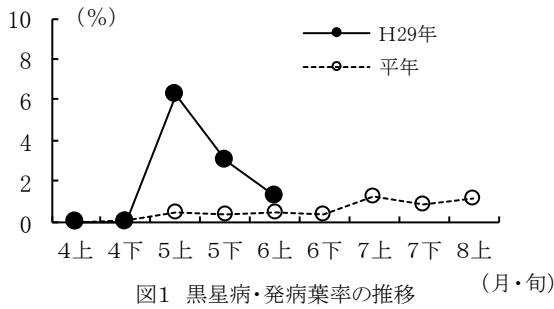
なし

1. 黒星病

平成29年5月16日付け病害虫発生予察注意報第2号を継続。  
なお、その後の発生状況については、以下のとおりである。

(1) 発生状況

6月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は1.2%(0.4%)、発病果率は0.02%(0.1%)、発生圃場率(葉)は41.7%(37.9%)であった。



(2) 予報の根拠

5月は発生が多かったため、伝染源となる罹病葉や罹病果が多いことが予想される。

2. ナシヒメシンクイ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(前年も発生を認めない)。

イ フェロモントラップ(諫早市小船越町)での誘殺量は平年よりやや多く推移している(びわの項参照)。

(3) 防除上注意すべき事項

フェロモントラップにより発生消長を把握し、成虫の発生最盛期を目安に薬剤防除を実施する。

ぶどう

1. べと病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率



0.1%、発生圃場率6.3%)。

## 2. 黒とう病

### (1) 予報内容

発生程度 並

### (2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(12筆)の結果、葉では、発病葉率は0.7%(0.5%)、発生圃場率は16.7%(16.7%)、また果房では、発生を認めなかった(発病果房率0.4%、発生圃場率6.3%)。

## 3. チャノキイロアザミウマ

### (1) 予報内容

発生程度 やや多

### (2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(被害果房率0.4%、発生圃場率8.3%)。

イ 黄色粘着トラップ(諫早市)による誘殺量は、平年よりやや多く推移している(かんきつの項参照)。

### (3) 防除上注意すべき事項

袋かけ前の防除を徹底し、多発地域では袋かけ後にも1~2回散布する。

## 果樹共通

## 1. カメムシ類

### (1) 予報内容

発生程度 並

### (2) 予報の根拠

ア フェロモントラップの誘殺量は、各地域とも平年並で推移している(下図)。

イ 病害虫防除員の報告では、一部圃場でびわ圃場への飛来を認めた。

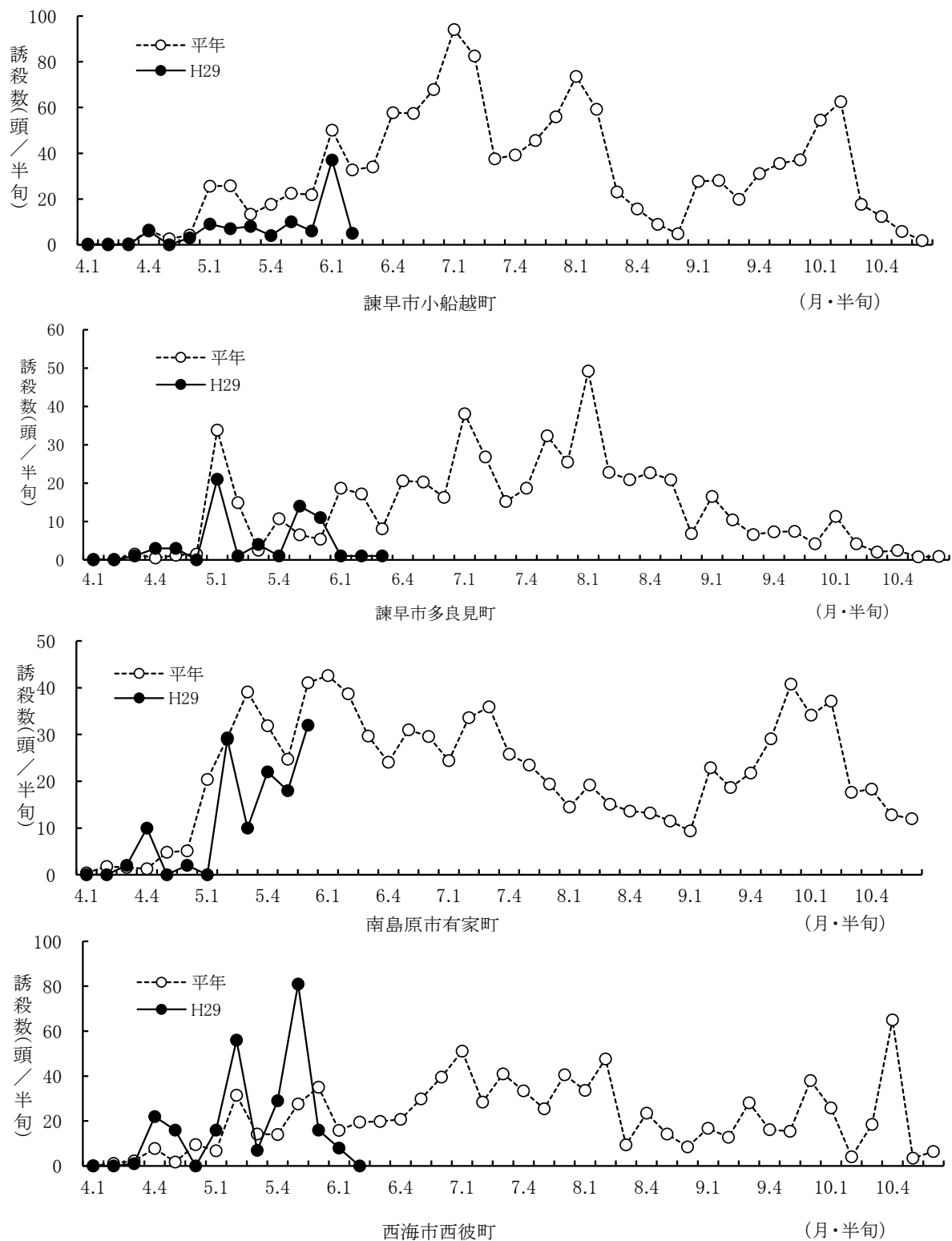


図 チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシの誘殺状況(黄色コガネコロール)

茶

1. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査（20筆）の結果、1㎡当たり発病葉数は0.5枚（1.3枚）、発生圃場率は25.0%（25.6%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤耐性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

## 2. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査（20筆）の結果、たたき落とし虫数（A4版トレイ）は19.7頭（26.8頭）、発生圃場率は95.0%（90.6%）であった。

## 3. チャノココクモンハマキ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査（20筆）の結果、発生を認めなかった（1㎡あたり巻葉数0.0枚、発生圃場率5.0%）。

イ フェロモントラップによる誘殺量（農林技術開発センター茶業研究室調査）は、5月2半旬にピークが見られ、平年よりやや少なく推移している（図）。

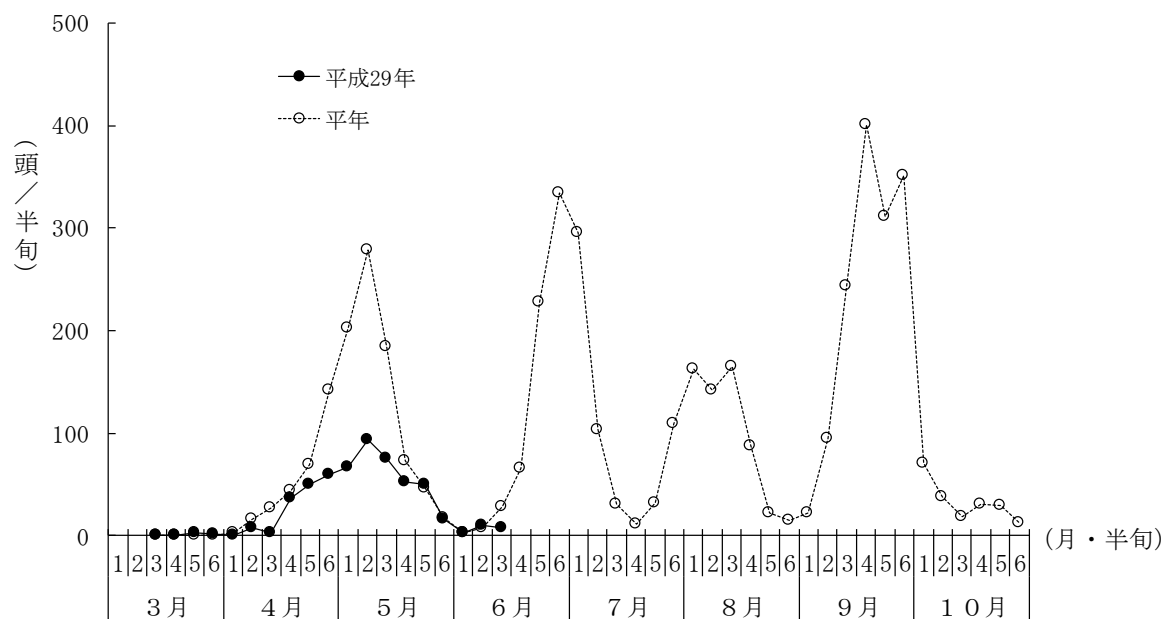


図 チャノココクモンハマキの誘殺状況（東彼杵：フェロモントラップ）

## 4. チャノホソガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査（20筆）の結果、発生を認めなかった（1㎡あたり巻葉数0.1枚、発生圃場率6.9%）。

イ フェロモントラップによる誘殺量（農林技術開発センター茶業研究室調査）は、6月1半旬にピークが見られ、平年よりやや少なく推移している（図）。

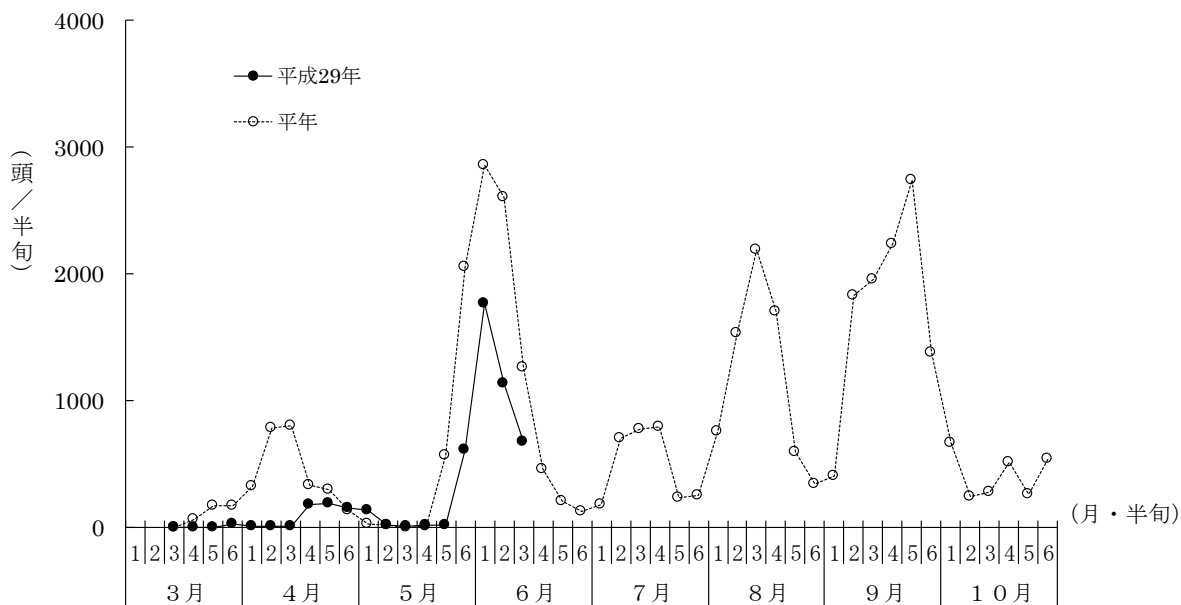


図 チャノホソガの誘殺状況（東彼杵：フェロモントラップ）

#### 5. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査（20筆）の結果、寄生葉率は2.0%（2.6%）、発生圃場率は30.0%（23.1%）であった。

#### 6. チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査（20筆）の結果、たたき落とし虫数（A4版トレイ）は9.7頭（3.4頭）、発生圃場率は95.0%（60.6%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤感受性低下防止のため、同一系統の薬剤は連用しない。

#### 7. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査（20筆）の結果、寄生株率は8.5%（7.8%）、発生圃場率は55.0%（41.3%）であった。



農薬を使用する機会が増える時期です。事故を防ぐため、特に以下のことに気をつけましょう。

- ・ 農薬を使う前にはラベルに記載されている注意事項をよく読み、使用方法や使用上の注意を守りましょう。
  - ・ クロルピクリン剤等の土壌くん蒸剤を使用するときは、揮散した薬剤が周辺に影響を与えないよう風向き等に十分注意するとともに、直ちに適正な厚さの資材を用いて被覆を完全に行いましょう。また、使用後は、ほ場に立て札を立てる等により、関係者以外の者の立入りを防ぐようにしましょう。
  - ・ 散布の際には、周辺への飛散に気を付け、周囲の作物、住宅、家畜、河川などへの影響に注意しましょう。
  - ・ 散布後は十分に器具を洗浄し、農薬の保管場所には必ず鍵をかける等適切に管理し、誤飲・誤食を防止しましょう。
- 長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。  
「長崎県病害虫防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>
- この情報に関するお問い合わせは、電話でお願いします。  
長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027

